

トップアスリート系列 2023



福島県立

ふたば未来学園中学校・高等学校

## トップアスリート系列

# 優れた競技力とリーダーシップを兼ね備えた変革者

双葉地区未来創造型リーダー育成構想※が掲げる「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を目指し、充実した環境のもと授業トレーニング等で競技力とリーダーシップを身につけ、競技力を生かして自らの進路を切り拓き、トップアスリートや生涯スポーツ社会のリーダーとして社会を牽引する人材を育成します。

### [系列の特色]

#### 高度な技術・理論を習得する授業トレーニング

バドミントン、レスリング、男女サッカー、野球の各競技において、部活動と連携した高度な技術・理論を習得することを目的とした授業トレーニングを行い、競技種目を横断した組織的な強化とともに、主体的な判断力等の資質・インテリジェンスに立脚した優れた競技力を育成します。

#### 充実した育成環境

ナショナルレベルの実績を有する優れた指導力のある教員やスペシャルコーチを配置するとともに、専用アリーナや専用グラウンド等のトレーニング施設や、アスリート食を提供する寄宿舎を整え、充実した育成環境で競技力を育成します。

#### 生涯スポーツ社会のリーダー育成

「未来創造探究（総合的な探究の時間）」等で、スポーツを通じた地域の復興や活性化を目指す探究的な学習に取り組み、自ら地域課題を解決するスポーツ・ビジネスのプラン等を立案・実践できる能力を養成し、トップアスリートや生涯スポーツ社会のリーダーとして活躍できる力を育成します。

※ 双葉地区 未来創造型リーダー育成構想について

「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とする、関係団体（県、双葉郡各町村、日本サッカー協会等の競技団体、大学等）の連携により平成18年度にスタートした人材育成プログラム。

これまでの取り組みによって、現在バドミントンの桃田賢斗選手が世界ランキング2位に君臨、東京オリンピック代表に7名の卒業生が出場し、メダルを獲得するなど、着実に成果を収めてきた。平成29年3月に新構想『双葉地区 未来創造型リーダー育成構想』に改訂され、「震災後の課題先進地域だからこそ、未来創造型の人材を育成する」「競技力だけではなく、タフでしなやかな、新時代のリーダーを養成する」「ふたば未来学園を新たな核としながら、多様な主体の協働を推進する」ことが柱とされている。



## バドミントン

中学 高校

バドミントン専用アリーナに加え、スペシャルコーチ(アンタルクルニア、セナトリア アグス：インドネシア出身)を含む7名の専任指導者による指導や、世界で活躍するOBOGとのトレーニング等、充実した環境のもと、中高一貫6年間で、一人ひとりの個性を尊重し、自由な発想のもと自主・自律の精神を培い「スポーツを通して世界に羽ばたける人材」を育成します。また、「WORLD STANDARD (世界基準)」での意識の定着と活動を重視し、国内だけでなく国際大会や国外での研修の機会などを設けながら、世界に目を向けた競技力と人間力を育成します。

### 主な実績

(中学)

全国中学校バドミントン大会

男子団体 優勝 7回 (H22~25 H29~R元)

女子団体 優勝 9回 (H21 H23~26 H28~R元)

男子シングルス 優勝 7回、ダブルス 優勝 4回

女子シングルス 優勝 6回、ダブルス 優勝 6回

全日本中学生バドミントン選手権大会

優勝 8回

全日本ジュニアバドミントン選手権大会

男子シングルスジュニア新人の部 優勝 7回

女子シングルスジュニア新人の部 優勝 3回

(高校)

全国高等学校総合体育大会バドミントン競技

男子団体 優勝 4回 (H25,H26,H29,R3)

女子団体 優勝 6回 (H24,H26,H28,H29,H30,R1)

全国高等学校選抜バドミントン大会

男子団体 優勝 2回 (H28,R3)

女子団体 優勝 3回 (H24,H25,H28)

世界ジュニア選手権大会

男子シングルス 優勝 男子ダブルス 優勝

女子シングルス 準優勝 混合ダブルス 第3位  
など

### 部員数

中学 29名 高校 23名

中学 1年男子 5名 女子 5名 2年男子 5名 女子 5名  
3年男子 5名 女子 4名

高校 1年男子 5名 女子 3名 2年男子 5名 女子 5名  
3年男子 4名 女子 2名

※ 2022日本代表 (ジュニアナショナルチーム) 選出選手  
U19: 9名、U16: 10名



活動場所 アリーナ2 (バドミントン専用アリーナ)  
活動時間 週25時間程度

## 年間活動計画

(中学)

- 5月 東北選抜バドミントン大会  
全国大会プレ大会
- 7月 福島県総合体育大会  
福島県中体連バドミントン大会
- 8月 東北中学生バドミントン大会  
全国中学生バドミントン大会
- 9月 全日本ジュニア選手権
- 11月 全日本総合選手権大会  
福島県新人バドミントン大会
- 12月 ジュニアグランプリ  
東北中学生新人バドミントン大会
- 3月 全日本中学生バドミントン選手権大会
- \*その他、国内遠征、海外遠征

(高校)

- 5月 福島県高校体育大会、日本ランキングサーキット
- 6月 東北高等学校選手権大会
- 7月 福島県総合体育大会、アジアジュニア選手権
- 8月 全国高校総合体育大会
- 9月 全日本ジュニア選手権、国民体育大会
- 10月 世界ジュニア選手権
- 12月 福島県高校新人体育大会  
全日本総合選手権大会
- 1月 東北選抜大会
- 3月 全国高校選抜バドミントン大会 など
- \*その他、海外遠征、海外大会への参加

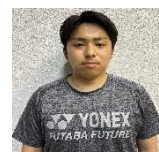
## 主な指導スタッフ



高校監督  
本多 裕樹  
ジュニアナショナルチーム  
(U19) コーチ



高校顧問  
大久保 菜摘



中高顧問  
久場 圭祐



中学監督  
齋藤 亘  
ジュニアナショナルチーム  
(U16) コーチ



中学顧問  
中村 善之



スペシャルコーチ  
アンタル・クルニア



スペシャルコーチ  
セナトリア・アグス  
元インドネシア代表

## 先輩メッセージ



桃田 賢斗  
平成24年度卒

富岡で過ごした6年間は僕の原点です。  
毎日バドミントンのことを考えて、いつも強くなりたいという気持ちがあったからこそ、今の僕があります。  
皆さんも今こうして過ごしている日々は、将来にとってのかけがえのない糧になります。  
スポーツでは結果として勝ち負けがありますが、必死で過ごした日々は人間的にも成長させてくれます。だからこそ、毎日を一つ一つ大切に過ごして頑張ってください。

## 2022日本代表 (ナショナルチーム) 選出OB/OG

A代表

齋藤 太一 H23年度卒  
松居圭一郎 H24年度卒  
桃田 賢斗 H24年度卒  
保木 卓朗 H25年度卒  
小林 優吾 H25年度卒  
大堀 彩 H26年度卒  
東野 有紗 H26年度卒  
渡辺 勇大 H27年度卒  
高橋明日香 H29年度卒

B代表

古賀 穂 H26年度卒  
三橋 健也 H27年度卒  
山田 尚輝 H28年度卒  
仁平 菜月 H28年度卒  
川上紗恵奈 H29年度卒  
水井ひらり H30年度卒  
廣上 瑠依 R02年度卒





# レスリング

中学 高校

レスリングマット2面の専用施設に加え、スペシャルコーチを含む専任指導者の指導など、充実した環境で技術・体力の向上をはかります。日々の活動を通じて、与えられた大会に真に向き合い、その活動を通じて将来社会に求められる人材の育成、格闘技の真の目標である「人間形成の実現」を目指します。

## 年間活動計画

- 4月 JOCジュニアクイーンズカップ
- 5月 北日本少年少女レスリング選手権大会  
JOCジュニアオリンピックカップ
- 6月 福島県高等学校体育大会
- 7月 福島県総合体育大会  
東北高等学校体育大会  
全国中学生大会
- 8月 全国高校総体
- 10月 国民体育大会  
全日本女子オープン大会
- 11月 福島県高等学校新人体育大会
- 12月 JOC杯予選会  
全国中学生選抜大会
- 2月 東北選抜大会
- 3月 全国選抜大会

## 主な実績《過去3年》

- 《過去3年》
- JOC杯ジュニアクイーンズカップ  
女子個人第3位
- JOC杯ジュニアオリンピックカップ  
男子個人ベスト8
- 全国高等学校総合体育大会  
女子個人第3位 男子個人出場
- 東北高等学校選手権大会  
女子個人第1位  
男子個人第2位・第3位
- 国民体育大会 出場
- 福島県高等学校体育大会  
男子個人優勝・女子個人優勝

## 部員数

- 中学 6名 1年男子2名、女子1名  
2年男子1名、女子2名
- 高校 6名  
1年男子1名、女子2名  
2年女子2名  
3年女子1名



## 先輩メッセージ

トップアスリートの授業では、大切な基礎や技術だけでなく、人として大事なことを学ぶことができました。体育大学に進むことを決めたので、さらに人としての力を磨き、競技力の強化を図っていきたいと思います。

穴戸拓海  
日本体育大学体育学部  
平成29年度卒

活動場所 アリーナ I B1 レスリング場  
トレーニングルーム  
活動時間 平日約3時間 休日約4時間

## 主な指導スタッフ



監督  
砂川 航祐  
2018全国社会人  
オープン選手権優勝  
2014世界大学選手権5位  
2012全日本学生選手権優勝



顧問  
吉田 幸司



スペシャルコーチ  
小倉 成海





## 男子サッカー

高校

JFAからの派遣による砂金伸先生を監督として迎え、2021年に完成したサッカー部専用人工芝グラウンドで毎日高いレベルの指導を受けることができます。またJFAメディカルセンターとの連携による医療的なサポートも含め、集中してサッカーに取り組める環境が整っています。日常のトレーニングから常に選手自身に「考えること」を求め、素早い「判断・決断・実行」ができるような機会を設け、たくましい選手・チームを目指すとともに、Creativeなチーム・スタイルにこだわって指導を行います。ピッチ内外問わず、「謙虚・素直・集中力・強いメンタル」を求め、高校サッカーの「プロ」を目指します。

### 令和3年度戦績

令和3年度福島県高等学校新人体育大会 県大会ベスト8  
 第100回全国高校サッカー選手権大会 福島県大会ベスト8  
 第68回福島県高等学校体育大会 ベスト16  
 高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2022福島1部リーグ所属

### 年間活動計画（令和3年度）

4月～10月 リーグ戦  
 5月 インターハイ福島県大会  
 10月 全国高校サッカー選手権大会福島県大会  
 11月 新人戦  
 その他各種遠征・練習試合

### 主な指導スタッフ



監督  
 砂金 伸  
 JFA派遣  
 スペシャルコーチ  
 JFA公認S級コーチ  
 元日本高校選抜監督



コーチ  
 四家 寛功  
 保健体育  
 JFA公認C級コーチ



コーチ  
 永山 真  
 保健体育  
 オランダサッカー協会  
 ユースコーチング  
 ライセンス



コーチ  
 佐藤 祐希  
 保健体育  
 JFA公認B級コーチ

活動場所 ふたば未来学園人工芝グラウンド  
 活動時間 平日約2時間 休日約3時間



部員数43名（1年：15名、2年：11名、3年：17名）





# 女子サッカー

高校

人工芝ピッチのトレーニング環境に加え、専任指導者による指導や、JFAやアカデミー福島とも連携したJFAコーチからの定期的なハイレベルの指導により、恵まれたトレーニング環境で競技力の向上に取り組みます。また、JFAメディカルセンターとの連携による医療的なサポートや、近隣のJヴィレッジでのなでしこジャパンやアンダーカテゴリー代表のトレーニングやゲームに間近で触れるなど、常に高いレベルのサッカーを肌で感じ、集中してサッカーに取り組める環境が整っています。

## 指導方針

- 基本技術を反復して身に付け、サッカーの楽しさを味わうことができるようにする。
- サッカーの基本的な個人戦術や集団戦術を理解し、自分で判断してプレーすることができるようにする。
- トップアスリートとしての資質を身に付け、社会生活に生かせるようにする。

活動場所	ふたば未来学園高等学校サッカー場 広野町多目的運動場
活動時間	平日約2時間 休日約3時間

## 主な実績

- インターハイ県大会 1位 (2019)
- 全日本高校女子サッカー選手権大会県大会 1位 (2019)
- 全日本高校女子サッカー選手権大会東北大会 出場 (2020)
- 高校新人大会県大会 1位 (2019) 2位 (2020)
- 東北新人選手権 4位 (2019)

## 年間活動計画

- 4月～10月 東北リーグ
- 6月 インターハイ県大会
- 9月 選手権予選
- その他各種遠征・練習試合
- 10月 選手権東北大会
- 12月 新人戦県大会
- 1月 新人戦東北大会



## 主な指導スタッフ



監督  
安齋 和之  
JFA公認B級コーチ  
GKレベル3 コーチ  
JFAコーチ女子GK担当



コーチ兼GKコーチ  
目黒 祐太  
JFA公認B級ライセンス  
GKレベル2 コーチ



コーチ・寮舎監  
五十嵐 香月  
JFA公認B級ライセンス

部員数 17名 (1年:8名 2年:5名 3年:4名)





# 野球

高校

3度甲子園に出場している双葉高校を始めとした野球が盛んな双葉地域の復興を目指して頑張ります。「個」を生かすことを第一に、自主性・協調性を育て、人間的強さを身に付けることを目指します。野球を深く知り、野球を通して身に付けた力で地域に貢献できる人になることを目指します。

## 主な実績

- R元年度 第71回春季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト4  
第101回全国高等学校野球選手権福島県大会 ベスト8  
第71回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト8
- R3年度 第73回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト8
- R4年度 第74回春季東北地区高等学校野球福島県大会  
相双支部予選優勝

## 主なスタッフ



監督 遠藤 太  
保健体育：磐城高校  
順天堂大学・硬式野球部



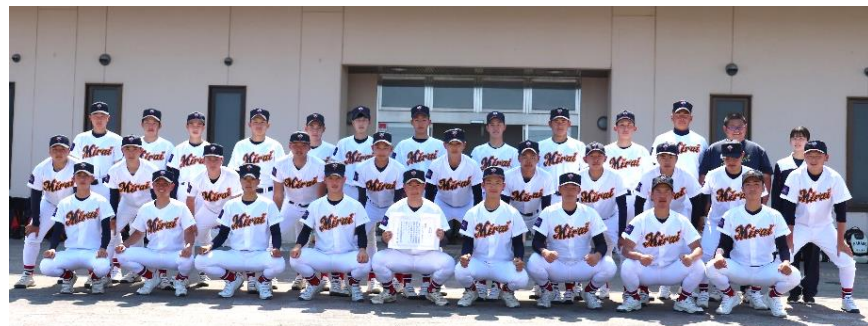
部長 鈴木 智之  
保健体育：白河高校  
大東文化大学・硬式野球部

## 年間活動計画

- 3月：選抜高等学校野球大会（甲子園）
- 4～5月：春季支部大会～県大会
- 6月：東北大会、春季支部選手権
- 7月：選手権福島県大会
- 8月：全国高等学校野球選手権（甲子園）
- 9月：秋季支部大会～県大会
- 10月：東北大会、秋季支部選手権
- ※その他高野連行事、練習試合(遠征)等

## 卒業生の主な進路先

- ・福島レッドホープス(国分 渉)
- ・東京農業大学北海道オホーツク
- ・東日本国際大学 ・中央学院大学 ・駿河台大学



部員数 1年次：4名 2年次：11名(男子マネージャー1名) 3年次：18名(女子マネージャー1名)



活動場所 本校野球場(校舎隣接)  
活動時間 平日約3時間 休日約4時間

# トップアスリート 育成を支える環境

## 生涯スポーツ社会のリーダー育成

競技力のみならず、スポーツを通して地域の復興や活性化に貢献していく資質・能力の育成を目指し、中高6か年でスポーツを通じた地域の復興、創造に取り組む探究的な学習を行い、自らの在り方・生き方を見出すとともに、地域課題を解決する能力を身につけます。

中学の『未来創造学』では、双葉郡の地域とスポーツの関わりについて探究した上で、スポーツの力で地域を活性化させる実践「地域スポーツ実践探究」や、競技に繋がる、フィジカル、メンタル、リーダーシップ等を探究する「競技探究」に取り組みます。

高校の『未来創造探究』では、原子力災害によって地域に生じている課題を直視しつつ、スポーツを「する」「見る」「支える」に「知る」の視点を加え、各視点から、スポーツを通じて地域を豊かにすることを目指して探究に取り組みます。

子どもの体力向上につなげるプログラムを構築して地域の小学校で子供たち向けに実施したり、高齢者の健康増進と地域活力創造に繋げることを目指して地域の歴史とウォーキングを掛け合わせたプログラムを考案するなど、生徒達は様々な実践を重ねています。



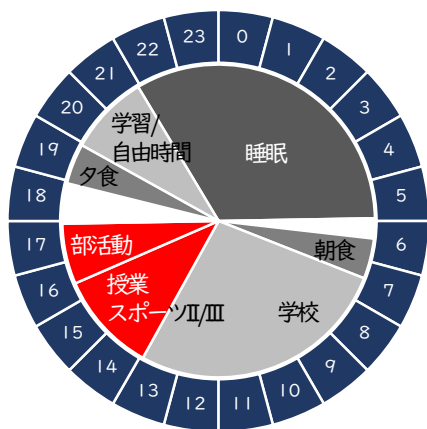
フランスのロクサナ・マラシニアヌ スポーツ大臣（左から2人目）に、バドミントンで高齢者の健康増進をはかるプランについて発表し意見交換する生徒（木村百加・右・現ヨネックス、染谷菜々美・現筑波大）

## 寮生活

ふたば未来学園高校には立志寮と海風寮の2つの寮があり、遠方から入学した中高生が親元を離れて生活を送っています。生徒主体での歓迎会やクリスマスパーティーなどの行事運営や、寮生活を自分たちで創り上げる自治活動を積極的に行っています。親元を離れて共同生活を送る経験を通して、人間性や協働する力を育みます。

本校寮には教員（寄宿舍指導員）7名と寄宿舍監督者9名の合計16名が24時間体制で勤務しています。常日頃から学級担任や部活動顧問と連携を図り、寮生一人ひとりに寄り添った指導を心がけています。指導員は、寮生だけでは解決できない問題や日々の生活に対して随時指導とアドバイスをし、共によりよい寮を創り上げています。

寮での3食の食事はアスリート食を提供し、競技力の基盤となる身体を創り上げる食育の指導も行います。



寮生の一日の生活（高校生）

Q 寮生活をしてみて、良かったことはありますか？

A 通学生ではできない経験をたくさんすることができます。友達と一緒に生活をして一緒に勉強したり、中学生から高校生までのたくさんの人と交流することができます。

Q 寮生活で大変なことはありますか？

A 集団生活なので毎日周りの人に気を配りながら生活をしなければならないことです。家ではいつも両親がやってくれていたことなどを自分でやらなければならない点も大変なところの1つです。

Q 寮生活を通して、どんな部分で成長したと感じますか？

A 集団生活をしているので自分のことは自分で行ったり、時間を意識して生活したりと、周りに気を配ることができるようになりました。

Q 寮生活の魅力はどんなところですか？

A 共同生活の楽しさだと思います。夏祭りやBBQ、クリスマスパーティーなど、季節ごとの行事も魅力です。たくさんの人と交流することで新しい自分の一面を見つかることもできます。



太田 瑞希さん  
R3後期立志寮副寮長  
高校3年次  
女子サッカー部